

フクオカヨーク利用による銘柄豚生産に適した止め雄の選定

山本英二・佐藤充徳・大和碩哉・投野和彦¹⁾

(福岡県農業総合試験場・福岡県筑後家畜保健衛生所)

Eiji YAMAMOTO, Mitsunori SATO, Hiroya YAMATO and Kazuhiko NAGINO :
Selection of stock boar mating Pig Strain "FUKUOKA YORK"

養豚農家において、当試験場で造成した大ヨークシャー種系統豚「フクオカヨーク」を利用して高品質な豚肉を生産するためには、止め雄の選定が必要である。そこで、県内において導入しやすいデュロック種 (D) またはハンプシャー種 (H) と D の一代雑種 (F₁) の HD を止め雄として用い、3元および4元雑種肉豚を生産し、その繁殖性と産肉性について検討した。

1. 材料および方法

1) 供試品種および頭数: 供試母豚は、大ヨークシャー種系統豚「フクオカヨーク」雌に東京都畜産試験場のランドレース種系統豚「エド」雄を交配させて、生産した F₁ の WL 雌 10 頭を用いた。肥育豚は WL 母豚に宮崎種畜牧場の D 系統豚「サクラ 201」または「サクラ 201」と H 系統豚「サクラ 101」の F₁ の HD 雄を交配させて、生産した3元雑種肉豚 WL・D と4元雑種肉豚 WL・HD のそれぞれ 31 頭を用いた。

2) 飼養管理: WL 母豚の種付けは1発情に1回行い、子豚は2週齢で餌付けし、3週齢で離乳した。肥育豚は体重 30kg から体重 105kg までとし、豚産肉能力検定飼料 (DCP12.0%, TDN74.5%) を不断給餌し、水は自由飲水とした。試験期間は、1993年8月から1994年10月までとした。

2. 結果および考察

繁殖成績は、第1表に示した。分娩頭数、ほ乳頭数、および離乳頭数ともに HD 交配区が D 交配区より多かった。これは F₁ の雑種強勢より精液性状が改善されたものと考えられる。子豚1頭当たりの体重は、D 交配区が HD 交配区より5週齢時で 0.9kg 大きかったが、有意な差はなかった。育成率は D 交配区、HD 交配区ともに 90% 以上で優れており、特に D 交配区は 99.1% と大変優れていた。肉豚の発育性は第2表に示した。1日平均増体量は、WL・D 区の去勢雄 844g、雌 738g で WL・HD 区の去勢雄 776g、雌 696g に比べ、良好だったが、個体間のバラツキが大きいため有意な差はなかった。飼料要求率は1日平均増体量と同様に WL・D 区が良好な

成績だった。と体成績は第3表に示した。背腰長Ⅱ、背脂肪の厚さおよびロース断面積について、ほとんど差はなかった。肉質成績は第4表に示した。肉色の明度を示す L 値で、WL・D が WL・HD に比べ、低く、色の濃い傾向がみられたが、有意な差はなかった。その他の成績についても、同様であった。

以上の成績から、止め雄の D と HD を比べると、繁殖性では HD、産肉性では D が優れる傾向が認められた。

第2表 発育性

区	頭数	1日平均増体量 (g)	飼料要求率
WL・D	16 (♂)	844±135	3.21
	15 (♀)	738±85	3.41
WL・HD	15 (♂)	776±106	3.44
	16 (♀)	696±77	3.62

第3表 と体成績

区	背腰長Ⅱ (cm)	背脂肪の厚さ ¹⁾ (cm)	ハム割合 (%)	ロース断面積 (cm ²)
WL・D	68.9	2.2	31.9	21.8
WL・HD	67.8	2.3	32.1	20.9

注) 1) 背脂肪の厚さ: 肩、背、腰の3部位の平均値

第4表 肉質

区	伸展率 (cm ² /g)	加圧保水性 (%)	肉色 ¹⁾		
			L	a	b
WL・D	20.8	78.4	52.7	8.78	6.26
WL・HD	20.4	77.2	55.2	9.75	6.96

注) L…明度, a…赤色, b…黄色: 4-5胸椎間のロース芯で測定

第1表 繁殖成績

区	分娩腹数 (腹)	分娩頭数 (頭)	ほ乳頭数 (頭)	離乳頭数 (頭)	育成率 (%)	体 重 (kg)			
						生 時	1週齢	3週齢	5週齢
WL・D	11	10.3	9.4	9.3	99.1	1.5	2.6	5.9	10.7
WL・HD	12	11.5	11.1	10.1	92.3	1.4	2.4	5.4	9.8